3	７番　　内　村　　博　法　　議員 ①　図書館及び健康センターの複合化施設建設計画について 　図書館及び健康センターの複合化施設建設計画については昨年１２月議会でも質問しましたが、今回引き続き次の通り質問致します。 （１）ビューテラス北陽台に図書館建設用地を選定した理由については平成２６年９月議会で、１点目、町内全域からのアクセス等利便性の確保、２点目、本町の人口規模と今の時代にふさわしい図書館機能を想定した場合に必要な用地確保の見通し、３点目、新図書館を新しい町のランドマークとし、中心市街地活性化の中核施設として位置付けた場合の周辺環境と地理的条件についての３点を答弁されている。そこで次の点を質問する。 （イ）アクセス等利便性については今回、駐車場１２０台（一般車両）を確保する計画になっているが、並行してバスの増便を図り利便性を高める必要がある。現在ビューテラス北陽台を経由している便数はどのようになっているか。また、今後の増便数などの目標についてはどのように考えているか。 （ロ）ビューテラス北陽台およびイオンタウンへ向かう交差点の信号機が、坂を登りきったところにあるため、対向車線の直進車両が見えづらく、右折車がぶつかりそうになるため、時差式もしくは右矢印が付いた信号にして欲しいとの要望を町民から受けている。また、パブリックコメントでも渋滞緩和のための交差点の改善要望が出ている。この交差点の改善については渋滞緩和も含め、どのように考えているか。 （ハ）本町の人口規模と今の時代にふさわしい図書館機能を想定されているが、今回の新図書館での人口規模と図書館機能はどのような基本方針となっているか。 （２）デジタル化導入については、１２月議会でＩＣタグの貼り付け、自動貸出機やセキュリティゲートの設置、Wi-Ｆｉ 環境の整備を答弁されたが、さらに町民へのサービスとして電子図書の充実、本を耳で聞くオーディオブックの導入はどのように考えているか。 　また、最近は観光やショッピングなどでインターネット上の仮想空間メタバースを活用していく分野が期待されている。実際に兵庫県の養父市（やぶし）は観光案内に活用している。図書館にも応用していくと電子図書と同様、図書館に来館する必要はなくなる。そういった未来の図書館運営がくるのではないかと予想され、図書館の規模も考える必要がある。このようなデジタル化の進展に伴い図書館のあり方が変化していくため、未来を見据えた整備も並行して検討する必要があると思われるが、どのように考えているか。 （３）複合化施設の管理体制などは１２月議会で協議中との答弁があったが、体制整備についてはパブリックコメントでも町民から具体的な提案も出ており、概要を町民に示す必要がある。この複合化施設の管理体制についてはどのような検討をしているのか。 （４）老朽化更新に伴う両施設の跡地活用ついては１２月議会で検討中との答弁があったが、跡地活用は建設と一体として構想を町民に示す必要がある。建設だけ説明しても町民の理解は得られないと思う。跡地活用についてはどのような構想になっているのか。 （５）複合施設の建設費用や維持管理費用の縮減対策については、１２月議会で過度な施設とならないような、長与サイズの規模で検討しているとの答弁があったが、高額な費用のため全庁的なコスト縮減プロジェクトを発足させ、専門家や町民も参加し、建設費や維持管理費用の徹底的なコスト縮減を図る必要がある。直ちにプロジェクトを発足し、コスト低減を図る考えはないか。また、民

	間でのコスト縮減手法としてよく導入されている、業者からのＶＡ提案（Value Analysis)、ＶＥ提案（Value Engineering）を積極的に促し、更なるコスト削減を図る必要があると思うが、どのように考えているか。 （６）現在、国はこども家庭庁を令和５年度に創設し、「こどもまんなか社会」を目指しており、子育ては国も長崎県も喫緊の政治課題となっている。健康センター機能は現在の機能を全て移管する計画となっているが、複合化施設は限られたスペースでもあり、少子化対策としてこども優先の社会を実現するため、乳幼児の母子健康などのこども政策課所掌分のみを移管し、この複合化施設には子育てに関する機能を充実した「子育て支援の拠点」の設置を検討してみてはどうか。 ②　上水道及び下水道の整備について （１）上水道の整備について 　現在、本町の浄水場の老朽化対策として長崎市との新浄水場共同整備事業が検討されており、昨年の全員協議会で検討状況の説明があった。そこで、次の点を質問する。 （イ）新施設の脱炭素の対応はどのような計画となっているか。 （ロ）長崎市との建設費及び維持管理費用の負担割合はどのようになるのか。 （ハ）長崎市との共同事業により、本町の水道料金はどの程度安くなるのか。 （ニ）浄水方法として膜ろ過方式を検討しているが、従来方式と比較しメリットはなにか。 （２）下水道の整備について （イ）平成２６年３月議会の一般質問で再生可能エネルギーの活用として下水処理水の放流落差を利用した小規模水力発電の導入を質問した経緯がある。長崎市では西部下水処理場で小規模水力発電を平成２３年に導入した実績があり、現在、上水道にも検討していると聞いている。また、大村市では平成３０年に坂口浄水場で導入している。地球温暖化防止対策の観点から本格的に下水処理水の放流落差を利用した小規模水力発電の導入を検討してみてはどうか。 （ロ）長崎市では年間約３万トンの下水汚泥を１００％再資源化しており、６割を肥料、４割を建設用資材として再利用している。本町の再利用状況はどのようになっているか。